

SGHから得られたものと今後の展望





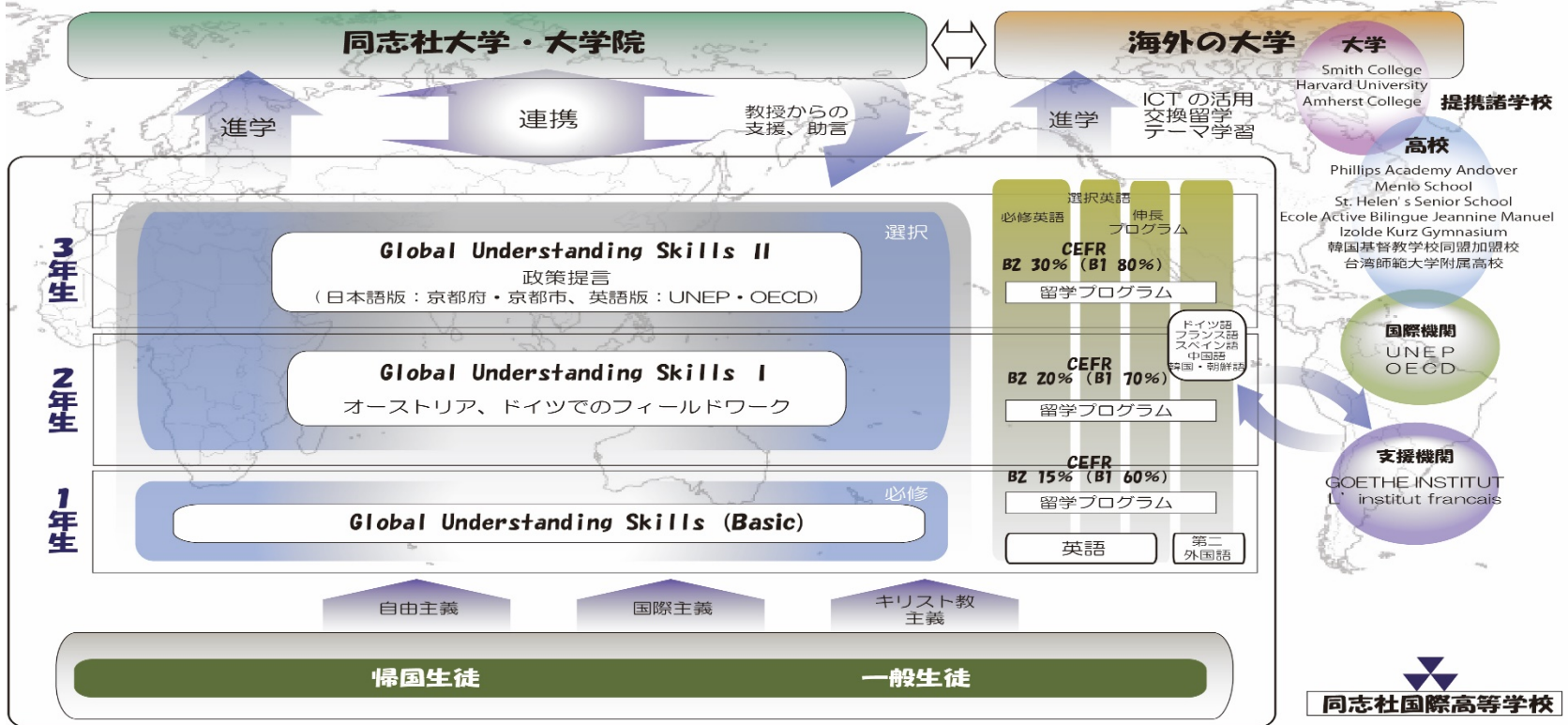
【本日の流れ】

- 構想概要
- 研究開発/実践や高大接続について
- 成果課題、成果普及について
- 事業の継続（今後）について



構想概要

持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム ～環境先進国に学び世界に提言～



ほぼこの通りの形で研究開発を行うことができた。



Innovative Student Program focusing on Globalization and Sustainable Societies:
~ Learning from environmentally advanced countries to bring new proposals to the rest of the world ~

50カ国からの帰国生徒を含む、多様なバックグラウンドを持つ生徒、教員により、「持続可能な社会」の探求を目指す。

日常体験の共有から始め、グローバルな社会課題、課題解決の方法論を学ぶ

世界で一冊の「リサーチブック」完成

訪問する環境先進国や提言先について学ぶ

学校の食堂、京田辺市、京都市、OECDに提言を提出、議論
「提言先の事情もよく考えなければならない」

Introduction

2/3 returnee students from over 50 countries
Solutions to global environmental issues
Proposed solutions w/community

1st of GUS Basic class



Basic global issues Sustainable Development Goals
Focused on environmental issues
Researched environmental policies
Germany and Japan (transportation, wastes, renewable energy)
Developed solutions related to waste problems at DIHS

2nd of GUS class



Researched German environmental measures
Japanese and German attitudes toward environmental issues
"Our map towards the future Inspired by Germany and research from SGH students"
Fieldwork

3rd of GUS class



Lectures from Organization for Economic Co-organization, Kyoto city and Kyotanabe city
Created solutions towards issues starting with familiar places and extended our view School Cafeteria, Kyoto city, Kyotanabe city, OECD(Organization for Economic Co-operation and Development)

Fieldwork

Germany and Denmark March 21st to March 31st in 2018 eight students
Motivated governments/citizens/local communities Lectures from various people

Frelamt:

300% renewable

co-owned by citizens

Bretlau:

bio energy village
combined heat and power

Frelburg:

advanced environmental practices

Hamburg:

Japanese consulate: lecture

Lolland island:

700% renewable energy

Leo Cristin

Fyn island:

offshore a windmill

Masato Yamada V.P.

Copenhagen:

bicyclic highway

quiet zone

international school: 12,000 solar panels



Post Fieldwork

Result

Results of Student Survey

Over 90% experienced an increase in knowledge on global issues

Gained Skills in:

Leadership, and Communication

Student Statements:

"My ability to think critically has increased significantly"

"We now understand each other's strengths and weaknesses, which allows us to cooperate effectively"



Proposal

School cafeteria

Changing current plastic containers to paper
Refill system for plastic bottles
Setbacks cost benefit balances
attitudes towards environmental issues
Students decided to focus on refill system
Increase types of recycling containers

Kyoto city

Reduce automobile use and waste
Reducing Waste
Incorporating garbage containers
Reduce automobile use
To control automobiles in the city
Rising parking fee
Increase use of bicycle /rental program

Kyotanabe city

Increase recycling
To increase the number of many types of recycling garbage cans
Increase the use of public transportation.
Transportation
Reward for citizens using a public transportation



OECD (Organization for Economic Co-operation and Development)

Why Q1?
Upcoming G20 In Osaka 2019
Application of Fieldwork in Japan



References Takigawa, Kaori, et al. Oshū No Enerugi Jiritsu Chiki: Hyakupāsento Saisei Kanō e. Gakugeishuppansha, 2012.
Imaizumi, Mincko. Koko Ga Chigau Doutsu No Kankyō Seisaku. Hakusuisha, 2003.



多くを学び、さらに学ぶ意欲を高め、生徒たちの絆も深まる。「環境政策だけでなく、それを可能にする民主主義や教育、ワークライフバランスにも興味も広がった」「このメンバーは仲の良い家族のよう」「人生が変わった!!!」

Every little thing counts!

研究開発、実践や高大接続について

☆教育課程や時間割上の特徴

- ・ 1年生は1単位必修科目「Global Understanding Skills Basic」を設置、270人全員がグローバルな社会課題や課題解決について学ぶ（土曜3講時）
- ・ 2、3年生は2単位の選択科目として30人×2クラスが受講する、「Global Understanding Skills I / II」を設置。
この科目内で海外研修の事前学習、事後学習も効果的に行う。
SGH向けの英語授業や第二外国語も選択科目として展開し、合わせて受講することが可能となっている。
（2年生は週4時間、3年生は週7時間の選択科目枠を設定）

☆教科の枠を超えた連携

- ・ 2019年度は、「Basic」は英語科、社会科、数学科、理科、「I」は社会科、理科、「II」は宗教科、社会科の専任教員が担当。
- ・ 全専任教員の1 / 5は English native speakerの英語科教員である。

研究開発、実践や高大接続について

☆アクティブ・ラーニング

- Communication Centerの活用
- リサーチ、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークを効果的に実施するための設備を備えている。
- 「答えのない問い」に対して、多様な教科教員と生徒たちが自由に意見を述べたり、主体的に取りくんだりすることができるようにしている。



研究開発、実践や高大接続について

☆特徴的な取り組み等

- Global Enterprise Challenge (GEC), World Scholar's Cupなど英語を使用する外部のコンテストに生徒が参加、世界大会でも成績を残す。
- 2018年度 GEC 世界大会 3位、WSC イエール世界大会 10人
- 2019年度 GEC 世界大会 2位、WSC 北京世界大会 16人



研究開発、実践や高大接続について

☆成果報告会の実施

- ・ 同志社大学 良心館で実施。33名の生徒が報告を行い、大学教員が基調講演やアドバイスを実施。

☆高大連携

- ・ 大学教員からの授業やFWへのアドバイス、教員派遣
- ・ 大学教員からポスターセッションにてアドバイス
- ・ EUキャンパスの活用（予定）

☆自治体、国際機関、企業との連携

- ・ 京田辺市、京都市
 - ・ ゲーテ・インスティテュート
 - ・ OECD
 - ・ 三菱ヴェスタス株式会社
 - ・ シダックス株式会社
 - ・ ビオセボン株式会社
- 等



研究開発、実践や高大接続について

☆メディアへの掲載

- ・ 京都新聞、朝日新聞など

同志社国際高校（京田辺市）の3年生たちが、校内の食堂から出る廃棄物を減らせたいか、検討している。使い捨て容器や割り箸を使わないようにするための「マイカップ」や「マイ箸」の普及といった対策の実現に向けて動き出した。

学食の廃棄物 減らしたい

同志社国際高生 運営会社と意見交換



食堂運営会社の担当者（手前）と意見交換する生徒たち＝京田辺市多々羅の同志社国際高校

同志社国際高校がテーマの時に環境問題がテーマの授業を選んだ25人。このうち8人は3月、先進的な環境政策で知られるドイツとデンマークでの研修に参加し、成果を共有した。

最終的な目標は、自治体に環境問題の解決策を示すことだ。そのステップとして食堂の廃棄物に着目。今月6日には食堂運営会社の担当者2人を招いて意見交換をした。

生徒側からは弁当を入れるプラスチック容器や使い捨てのドリンク容器を減らす方法を提案。紙容器にして環境への負荷を軽減▽「マイ箸」を普及させ、割り箸は有料化▽「マイカップ」に対応したドリンク自動販売機の導入――などで、コスト面のメリットも説明した。

会社側が「衛生面で不安がある」「機械の購入に経費がかかる」と難色を示す場面もあったが、「会社の規定に沿い、校内での事前告知もすれば実践が可能なこともある」という見解を引き出した。

生徒たちは来年2月まで検討を重ねる。渉外・交渉を担当するグループの松山花菜子さん（17）は「環境に良ければと単純に考えていたが、会社のルールや衛生基準など、知らなければいけないことが多いんだと感じた」と話した。

（伊藤誠）

朝日新聞 2018年11月28日 第2京都10版 26面 掲載

成果報告・成果普及について

☆報告冊子の作成

- ・ 年間1回報告冊子を作成

☆ウェブサイトを通じた成果普及

- ・ 年間60回以上の授業や講演会等についての記事配信



The screenshot displays the website for Super Global High School (SGH). The header includes the school's name and logo, and identifies it as a designated Super Global High School. A navigation menu shows the current page is 'GUS Basic - Global Issueとはなにか'. The main content area features a news article dated 2019-05-11 titled 'GUS Basic - Global Issueとはなにか'. The article includes a sub-header '授業' (Lesson) and a paragraph describing a lesson where students discussed various Global Issues. A quote from a teacher, Mr. Sasaki, is included, explaining the importance of Global Issues and the UN Millennium Development Goals (MDGs).

SGH SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL
スーパーグローバルハイスクール認定校

同志社国際高等学校

SGH
Super Global high School

本校の取り組み >
活動報告 >

» 授業
» 講演会
» 国内フィールドワーク
» 海外フィールドワーク
» 課題論文

GUS Basic - Global Issueとはなにか

2019-05-11

授業

初回の授業では、それぞれが経験した、または感じてきた様々なGlobal Issueをクラスで出し合いました。今日は、佐藤友亮教諭を講師に迎え、Global Issueの基礎編についての講義を受講しました。

Global Issueは国際社会の協力なしには解決することが困難な地球的規模の問題です。その解決に向け、2000年にニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットで、21世紀の国際社会の目標として、より安全で豊かな世界づくりへの協力を約束する「国連ミレニアム宣言」が採択されました。この時にまとめられたのが「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」です。MDGsは、国際社会の支援を必要とす

SGHの取り組みから得られたこと

☆3年間のプログラムを終了した生徒

- ・ 生徒自身が自己の成果検証レポートを作成
- ・ 生徒自身が身に付いたスキルについてアンケートを作成、実施
→ これからの社会に必要な力を大学進学前に生徒が自己検証
- ・ 深い議論のできる友人関係を構築

☆教員

- ・ 教科の枠を超えた教員の協働
→ 各教員の多様な経験や長所を生かし合う

☆学校全体

- ・ 自治体、国際機関、企業とのコラボレーションによって生徒・教員の視野が広がった
- ・ 大学との連携の強化によって、高度な学習に高校段階から取り組み、より進路を意識できるようになった



今後の展望

- ☆同志社が創立以来、教育理念の1つとしてきた「国際主義※」にもとづき、SGHの経験を生かす。
- ☆アメリカ、フランス、ドイツ等の連携校との連携をますます強化する。
- ☆WWLへの取り組みによって、さらに多様な生徒、教員、大人と協働し、新しい価値を創造していきたい。

※外国語を話せるだけでなく、異なる価値観を受け入れ、そこから「何か」を見出せる人を育む。単にコミュニケーションの道具として外国語を学ぶだけでなく、世界の文化にふれ、「お互いの違いを認め合う学び」を実践しています。

同志社国際中学校・高等学校



同志社国際中学校・高等学校
アドミッションズセンター